

246号線
(大山街道)

川和町の地図

川和富士

川和町 の 概要

川和小

瑞雲寺

川和市民の森

川和町駅

上麻生線
(日野往還)

妙蓮寺

谷本川
(鶴見川)

中山恒三郎家
(横浜市認定歴史的建造物)

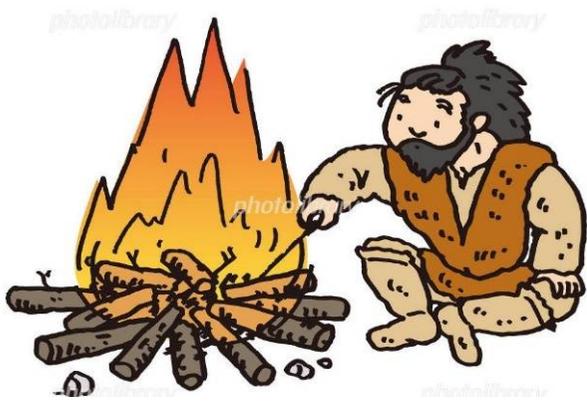
中原街道



川和町の地形



作成：ジオテック株式会社



石器時代末期

川和の歴史

- 川和高校の東側で花見山遺跡が発見され、1300点もの遺物が発掘された
- これにより、川和地区に1万年以上前から人々が生活していたことが判明した

生活が狩猟
から農耕に
移った時期
です。

見花山（花見山遺跡）



横浜市歴史博物館
（センター北）で
見られる！！

尖頭器の土器

川和富士

川和高校



見花山遺跡

源頼朝



鎌倉時代

- 約800年前、鎌倉幕府は源頼朝の御家人に構成され、最も多いのは武蔵国で、その頂点が、秩父一族であった
- 秩父一族は、武蔵国の南部都筑郡へ進出し、その地名を苗字とした



中山さん、
信田さん達
の先祖です。

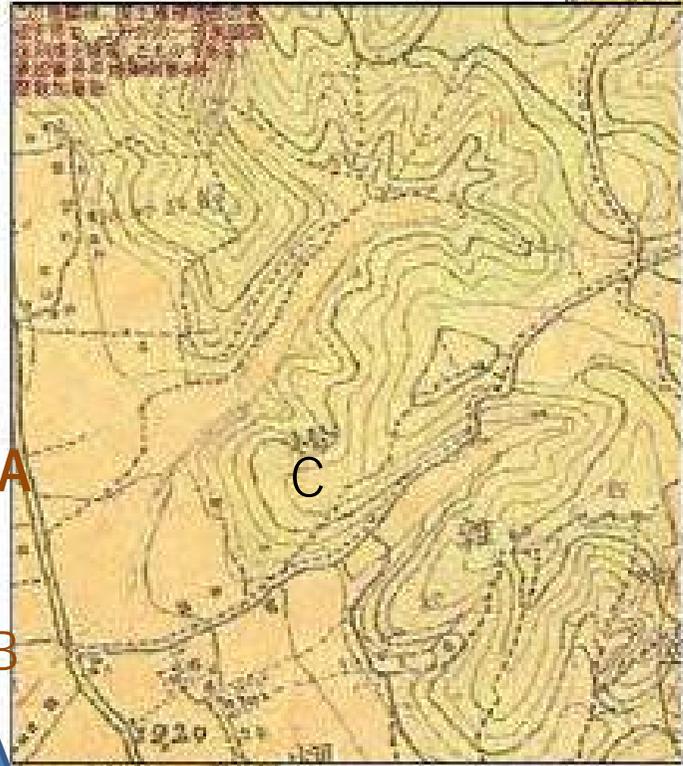
鎌倉街道

（上麻生線の一部）

- 『吾妻鏡』に、奥州征伐で源頼朝率いる軍が鎌倉街道中路より御下向されると書かれていた
- 鎌倉からの経路は、鎌倉から戸塚方面に向かい、中山/荏田（上麻生線）を経て、大山街道（246号線）と推定

明治15年の測量地図

現在の地図





都筑郡は、武家の都の後背地としての役割

- 将軍家領・池辺郷東方、北条家・領佐江戸郷
- 承元3年(1209)の幕府政所下文には、八佐古(八朔)郷等から「五升米を徴収」と記載

北条早雲



武田信玄



戦国時代

武田信玄との
戦に備えて

- 戦国時代に入って、北条氏が小机城を修復し、支城として鶴見川沿いに川和城を整備
- 永禄2年(1559)の『小田原衆所領役帳』には、「小机の内、川和郷所領高二十貫匁」と記載



甲斐
(山梨)



武田信玄

川和城



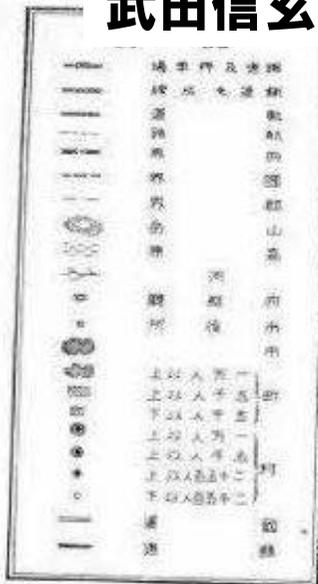
越後
(新潟)



上杉謙信



川越



八王子

津久井

日野往還

荏田、茅ヶ崎

池辺、左江戸

川和

小机

多摩川

江戸

中原街道

玉縄



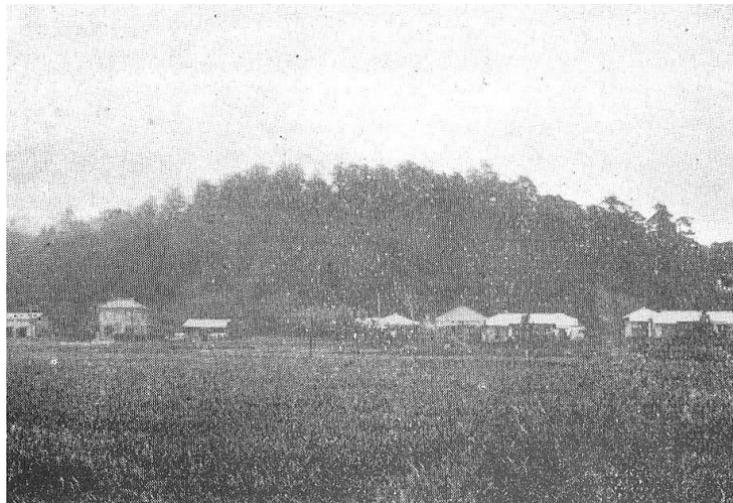
北条早雲

小田原



川和城

- 『新編武蔵国風土記稿』には、「妙蓮寺は川和城壘の城地に建設」と記載
- 昔、字の名前に、城山、城山下、城山根、城古場等



昭和4年



平成31年

徳川家康



江戸時代

徳川家康の子
で二代将軍・
徳川秀忠の妻



於江

・約400年前、江戸時代に入って
北条氏領は徳川秀忠の妻・於江
の所領となり、亡くなった後は菩提寺・
増上寺へ引き継がれた

・都筑郡の川和村(川輪村)となり、武蔵風
土記に詳細が記載されていた

武蔵風土記の川和村

- 東は佐江戸・池邊の二村に、南は青砥村、西は八朔村に、北は荏田・市が尾の二村に境（日野往還の一部であることと推定）
- 東西三十町（3.3 Km）南北二十五町（2.8 Km）程。村内多くは高低差があり、鶴見川の近い所が開けていた
- 家数133戸が散在
- 畑が多く水田は少ない、農耕以外は紙漉き、養蚕等を行っていた

川和村の村絵図

天保7年(1836)に作成された川和村の村絵図



山王原、中村、
道珍村、上(サ)
村、宿、道玄田、
城古場、加賀原、
貝ノ坂の集落の
名前がある

中山恒三郎家所蔵

日野往還

- 「佐江戸」から川和を経て「市が尾」を結ぶ道
- 戦国時代、軍事道路
- 江戸時代、東海道と甲州街道を繋ぐ脇街道
- 明治時代以降、製糸や養蚕で栄えた群馬、埼玉、長野、山梨等の絹の生産地と交易路を結ぶ道





改修前の
日野往還

明治時代以降

- 明治11年（1878）に、かつての村域は都筑郡となり、郡役所は川井村におかれたが、川和村へ移転
妙蓮寺が郡役所仮庁舎となった
- 明治22年（1889）に、町村制の施行により都田村が成立し大字川和

谷本川
(鶴見川)

川和町昔地図

1888年(明治20年)



「八幡神社」

「山王社」



「瑞雲寺」



「メインストリート」



「谷本川土手」



「川和富士」

「天宗寺」



「川和小学校」



「川和城址」

「天王社」



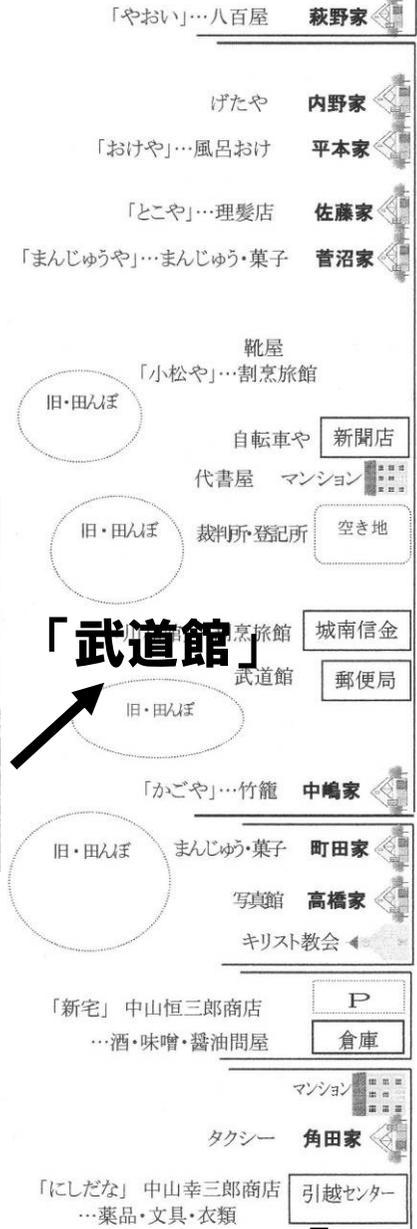
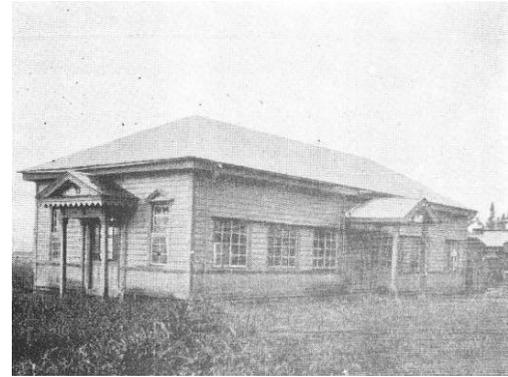
「妙蓮寺」

旧日野往還

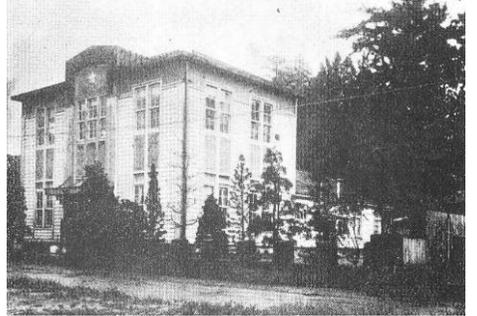
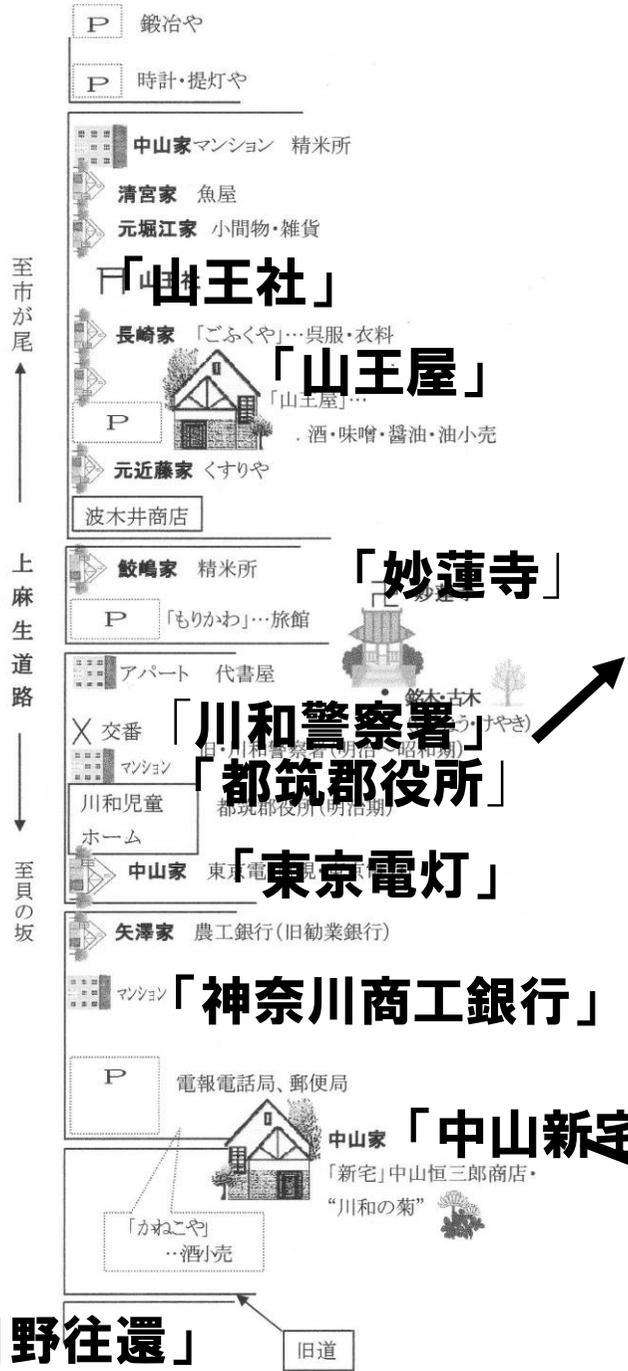
「薬師堂」

川和町の中心昭和初期(1930年頃)

(明治期～昭和45年頃まで)
 ※太字=現居住者、「J」=屋号と職業



Design by c.nakayama



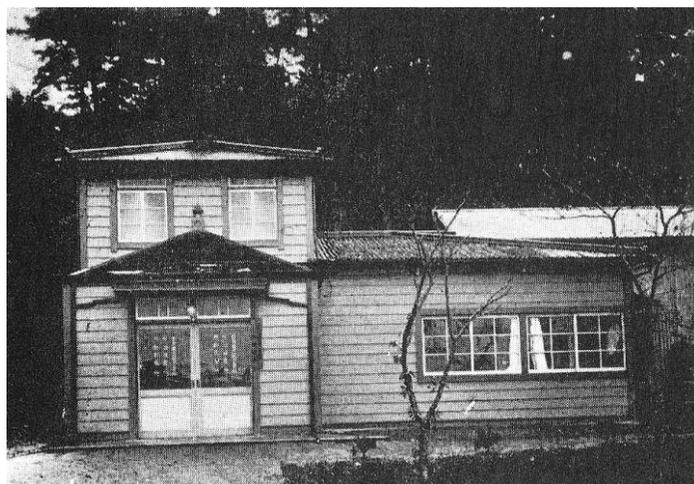
「旧日野往還」

旧道

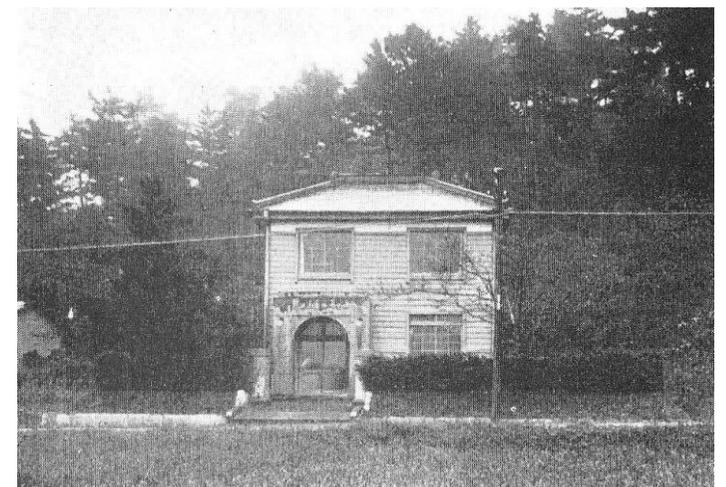


昭和4年
関東配電
川和出張所

昭和4年
神奈川
農工銀行



平成27年
八幡神社



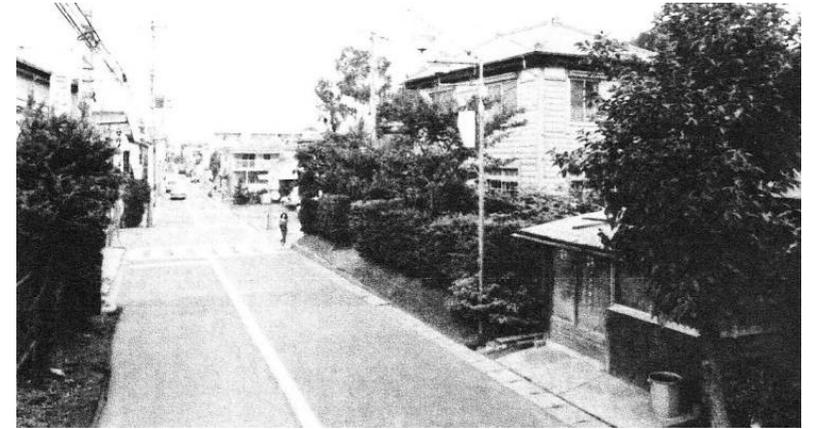


- **昭和9年(1934)、都田村が改称し川和村**
- **昭和10年(1935)、町制施行して川和町**
- **昭和14年(1939)、横浜市港北区**
- **昭和44年(1969)、緑区が設置され、川和に緑区役所**
- **昭和47年(1971)、区役所が中山に移転し地域の中心地の役割が薄れた。**
- **平成元年(1988)二の丸、平成3年(1991)川和台が設置**
- **平成6年(1994)、区再編により、都筑区**

川和町街並みの変化



昭和9年(1934)



昭和62年(1987)

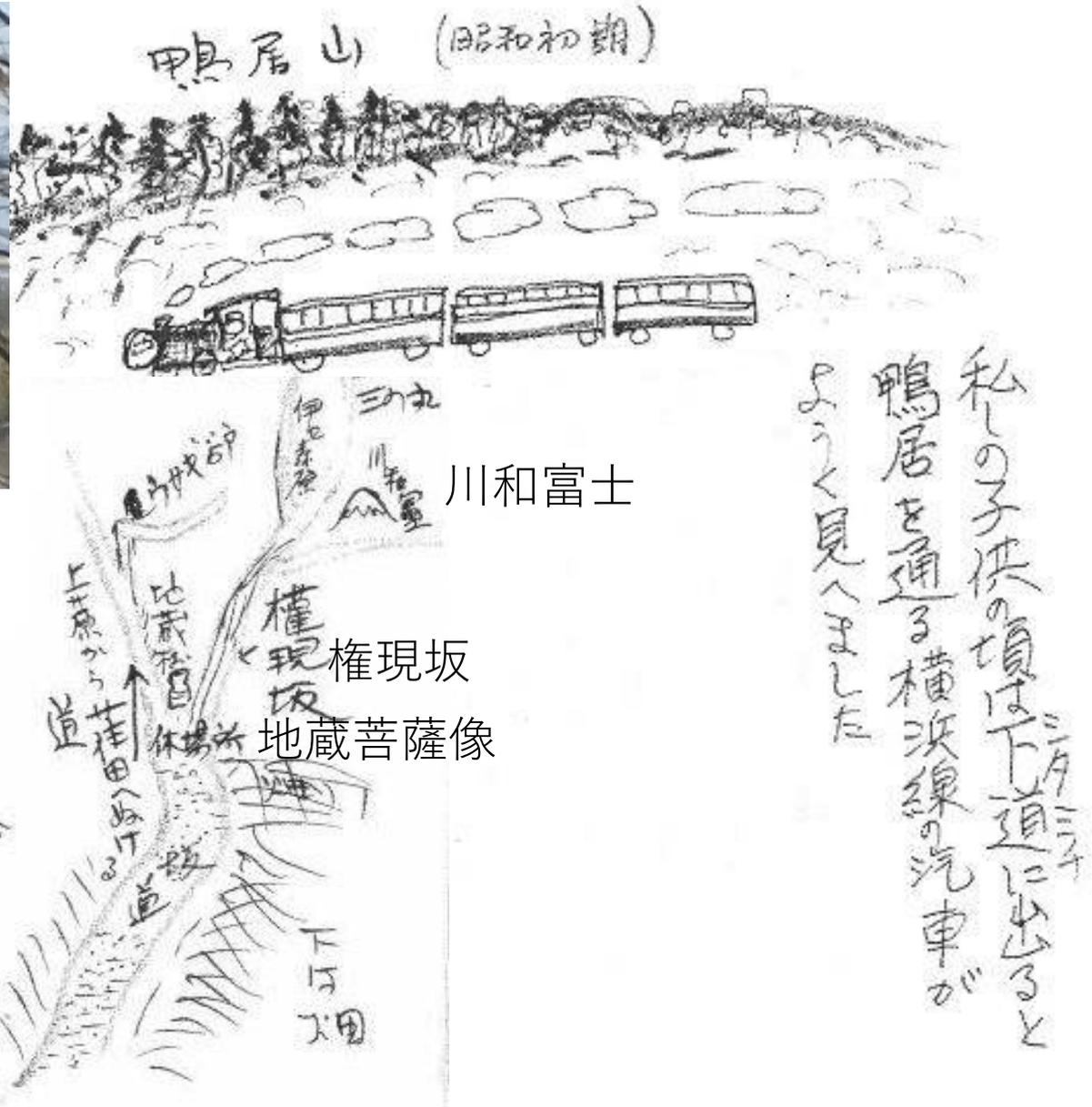


平成31年(2019)

権現坂（都筑が丘II） から鴨居を見る



権現坂からの眺め（現在）



地藏菩薩像跡

天宗寺

千代橋・精進橋

昭和初め



大正7年



昭和30年



昭和62年



横浜市営地下鉄グリーンライン 川和町駅（建設時の様子）



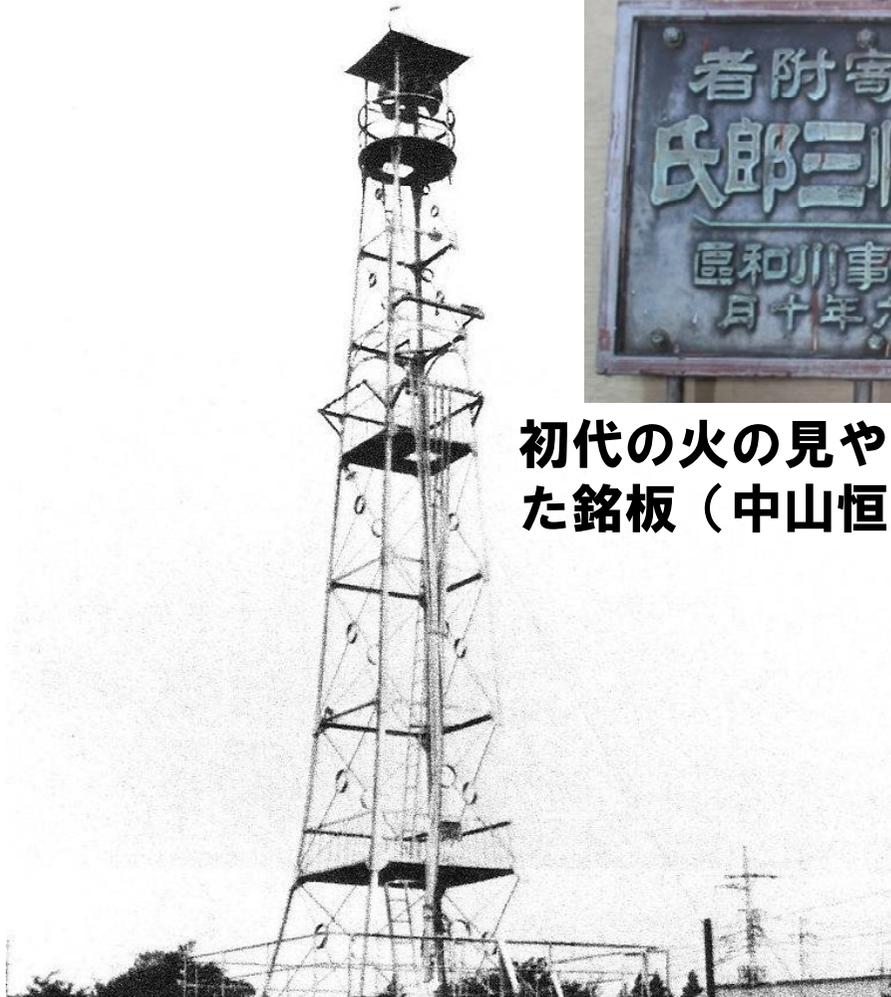
平成17年の横浜市営地下鉄グリーン
ライン・川和町駅建設の様子

令和2年





火の見やぐら (地蔵堂跡にあったが棄却)



昭和6年に建設された
“火の見櫓”



初代の火の見やぐらに付いてい
た銘板（中山恒三郎家所蔵）



平成27年

川和消防会団

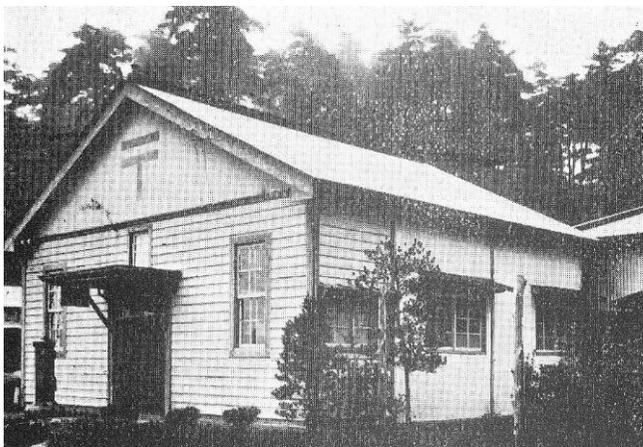
川和消防出張所



令和2年



明治10年消印



昭和14年

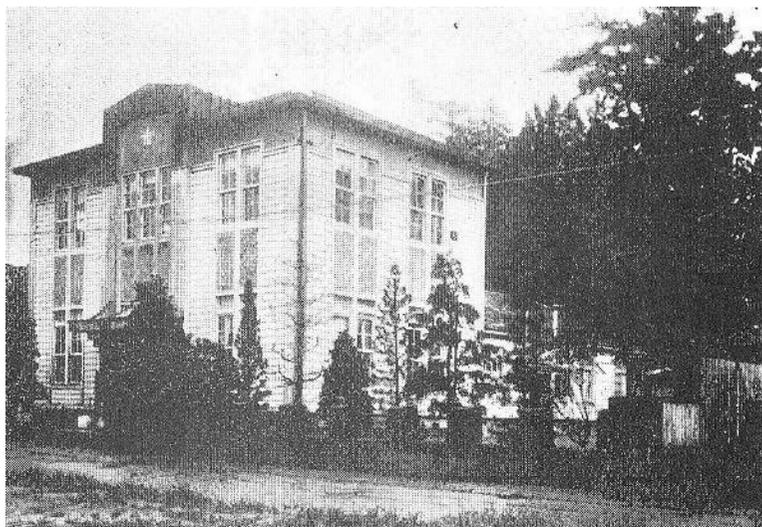
郵便局

- 明治初年に郵便取扱所第六會所を設置
- 明治12年に今日の通信制度の郵便役所を設置



平成27年

都田警察署（川和交番）



昭和4年



平成27年



明治6年に都田村に2ヶ所の巡査（当時「邏率」）の交番（当時「詰所」）が設置

明治14年に川和分署に設置され業務を移した

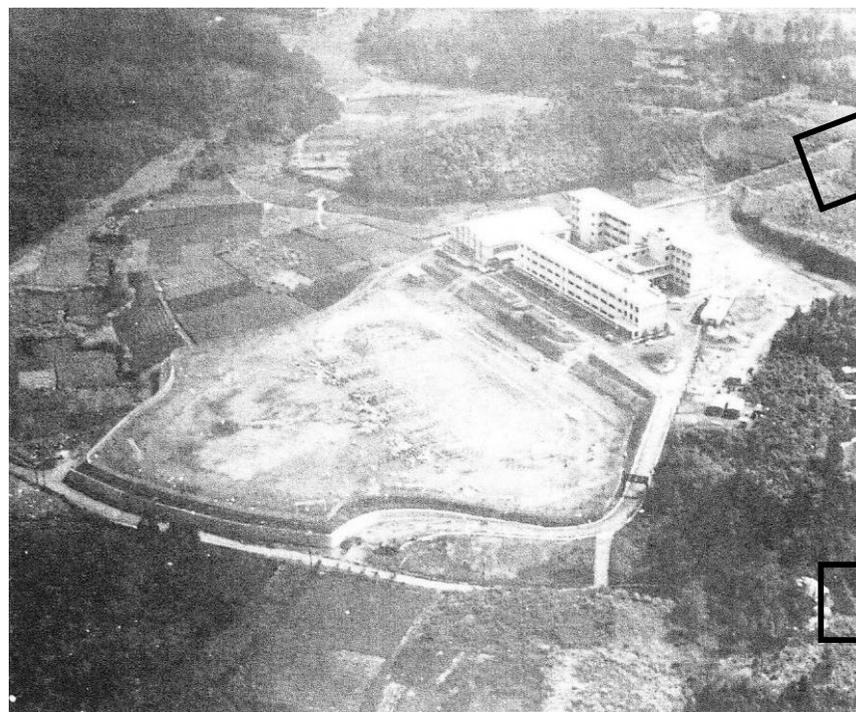
明治13年に都田警察署となり、昭和8年から川和警察署となった

昭和48年川和交番が設置された

川和高校



ケンカ山
見花山かりん公園



昭和37年

瑞雲寺



昭和39年

旧川和車庫



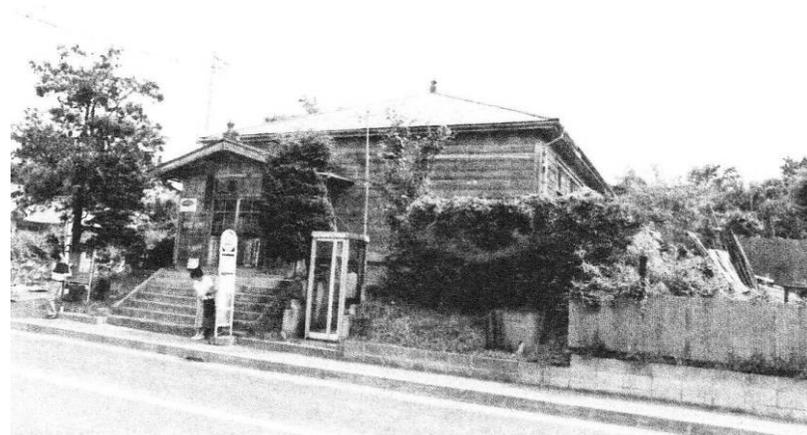
令和3年

昭和37年(1962)に、「港北区にも県立高校を」との地元の要望により、港北区初の県立高校である『川和高等学校』が設立された。

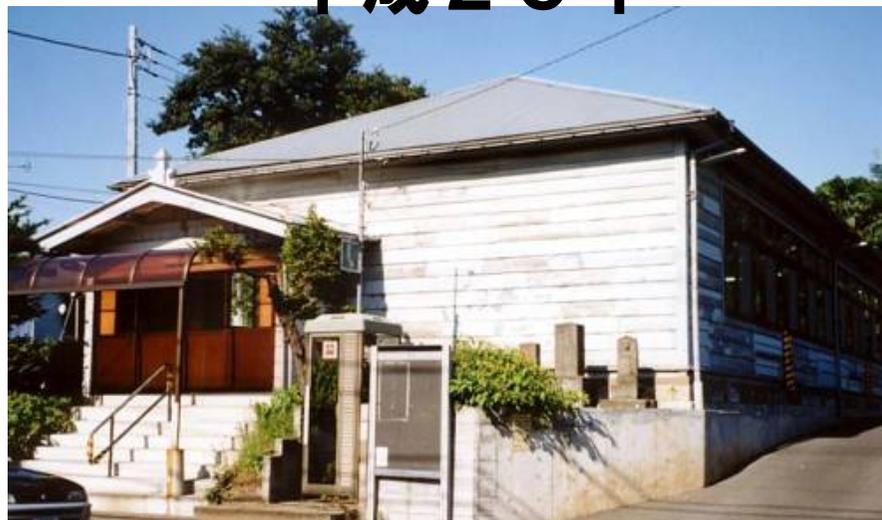
川和公会堂（旧川和小学校） （棄却されバス停が残る）

昭和62年

昭和9年



平成23年





川和小学校



校章は、「川和の菊」に
ちなんでいる

- **明治5年(1872)文部省が「学制」を制定
第1大学区・第9中学区さらに小学区が設置
川和地域の小学区に川和学舎(瑞雲寺)が開設**
- **明治11年旧川和公会堂裏に校舎が新設、明治
29年豊永小学校(明治44年都田小学校)に
併合**
- **大正5年川和村に都田小学校第1文教場**
- **昭和23年5月横浜市立川和小学校が誕生**

中山恒三郎家（新宅）

- 中山家は酒類問屋、醤油醸造業を営むとともに、当主は代々「恒三郎（ツネサブロウ）」の名前を襲名、地域のリーダーのひとりとして活躍
- 初代は江戸時代に酒類販売等を開始、二代目が醤油製造を加え、三代目は煙草や塩販売にも進出し、神奈川県農工銀行の重役、村会議員や郡会議長などを歴任、四代目、五代目と継ぎ、現当主の健氏が六代目
- 昭和13年（1938）の「神奈川県勢総覧」では「中山家は郡内一の豪商、または資産家である」、そして「中山恒三郎商店で通る県下有数の大商店である」と記載
- 自宅庭園・築山『松林圃』は「川和の菊」の中心で、皇族・著名人をはじめ多くの人々で賑わった

長老・城所さんが、
描かれた“川和
の昔の様子”から



中山恒三郎商店
呉服雑貨部前
(現在のイエ
ローハットの駐
車場付近)での
消防団出初式



昭和4年(1929)

横浜市認定歴史的建造物 中山恒三郎家店蔵・書院

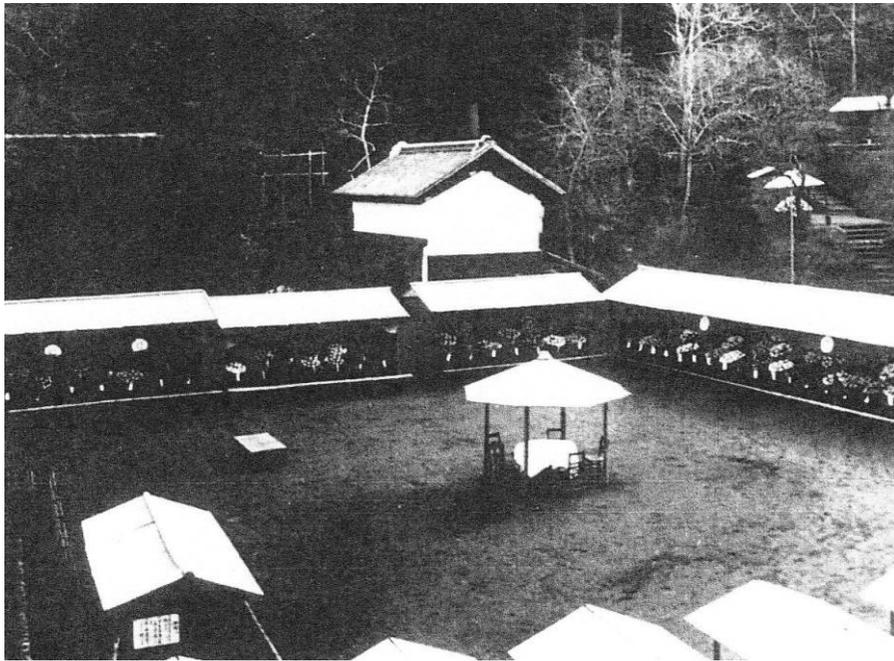
- 中山恒三郎家敷地には本邸や多くの蔵などの建物あったが、現在4棟が現存し、店蔵と書院は「横浜市認定歴史的建造物」
- 店蔵の建築年は不詳であるが言い伝えで敷地内最古の建物で、中山恒三郎商店の本店として使用された
- 書院は宮様のご宿泊される為、明治23年に本邸に付随する建物として新築（現在、客殿として使用）



原則非公開

川和の菊 (松林園)

長老・城所さんが、描かれた
“川和の昔の様子”から

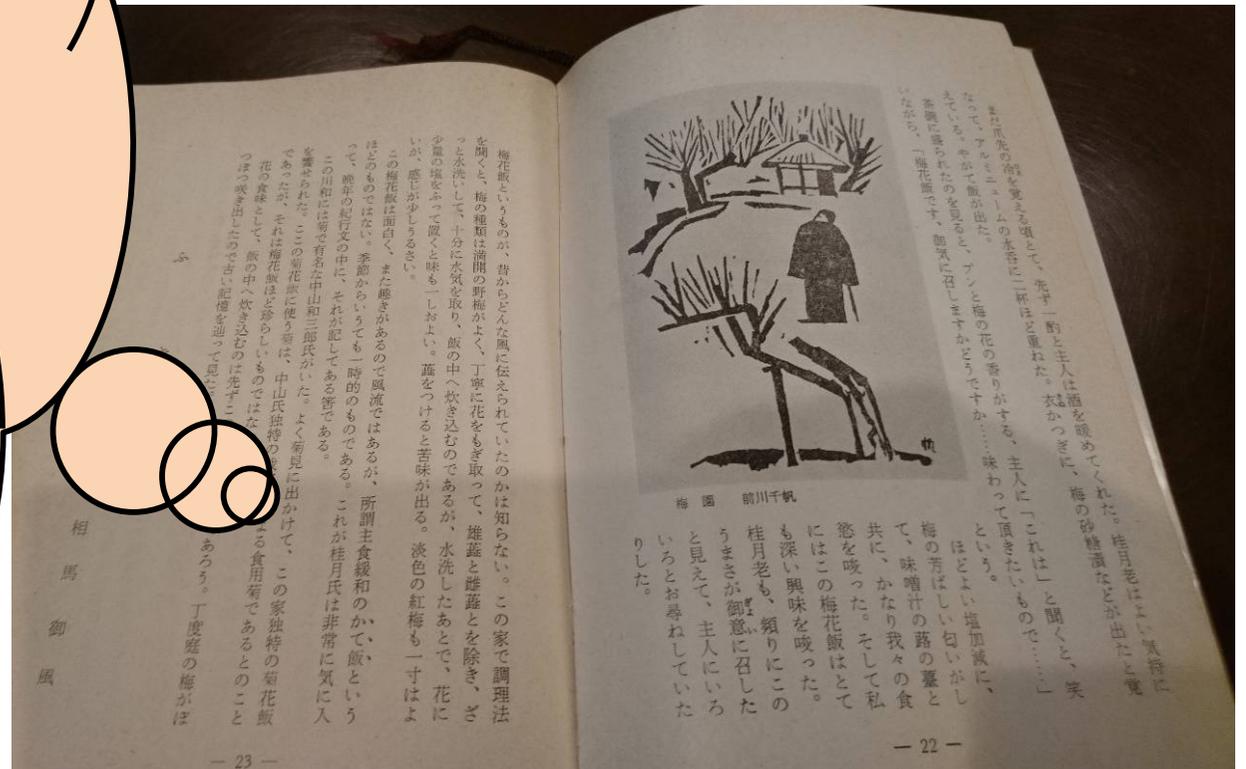
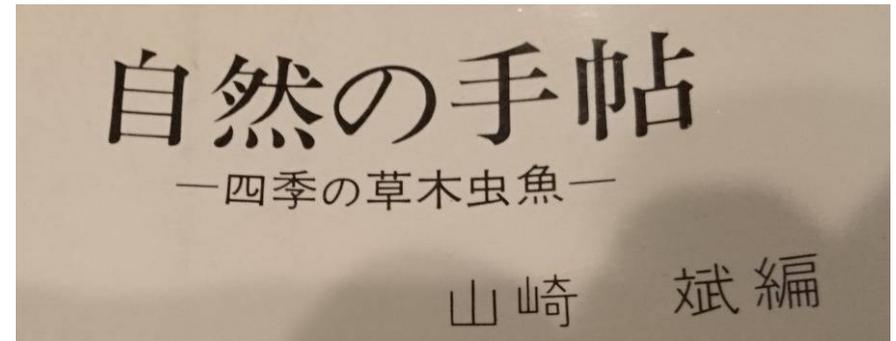


昭和初期 (1930年頃)



冊子 川和について

この川和には菊で有名な中山和三郎氏がいた。よく菊見に出かけて、この家独特の菊花飯を饗せられた。ここの菊花飯に使う菊は、中山氏独特の栽培法による食用菊であるとのことであったが、それは梅花飯ほど珍しいものではない。花の食味として、飯の中へ炊き込むのは先ずこの梅と菊の花位であろう。丁度庭の梅がぼつぼつ咲き出したので古い記憶を辿って見た。





八幡神社

総社（宇佐八幡）

『三代実録』の貞観17年（875）に
「武蔵国正六位上河輪神従五位下を授く」

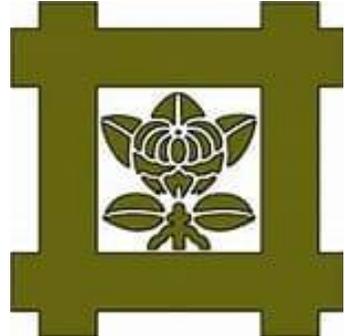
昭和4年



平成31年



浅間神社（川和富士より移設）



日蓮宗寺院

妙蓮寺



六地藏



平成27年
(2014)



昭和4年(1929)



臨濟宗円覚寺派

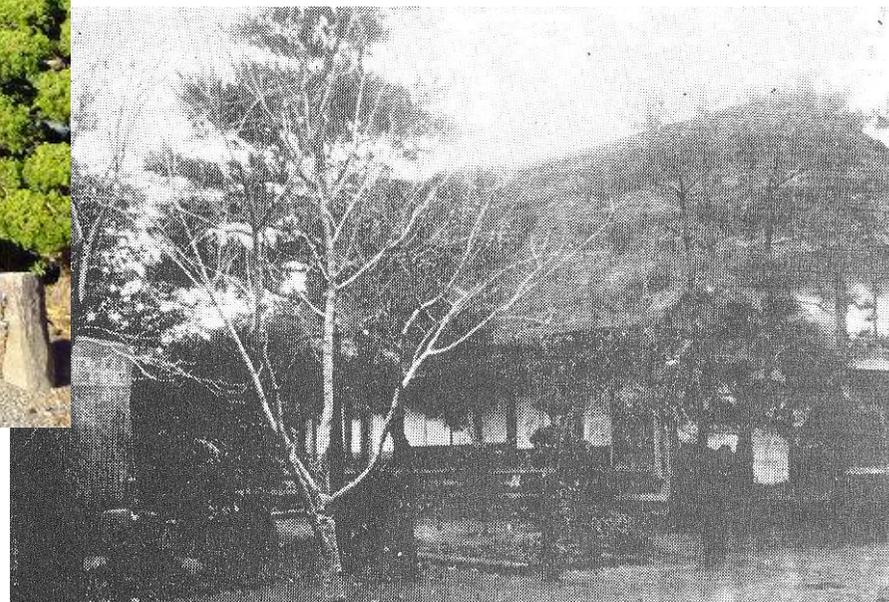
瑞雲寺



平成27年(2014)



六地藏



昭和4年(1929)



天宗寺

浄土宗寺院

天宗寺には観世音菩薩、境内に一列に並んでいるのが西国三十三観音及び六地蔵の像でその隣に古い芭蕉句碑



三十三観音



六地蔵

平成31年



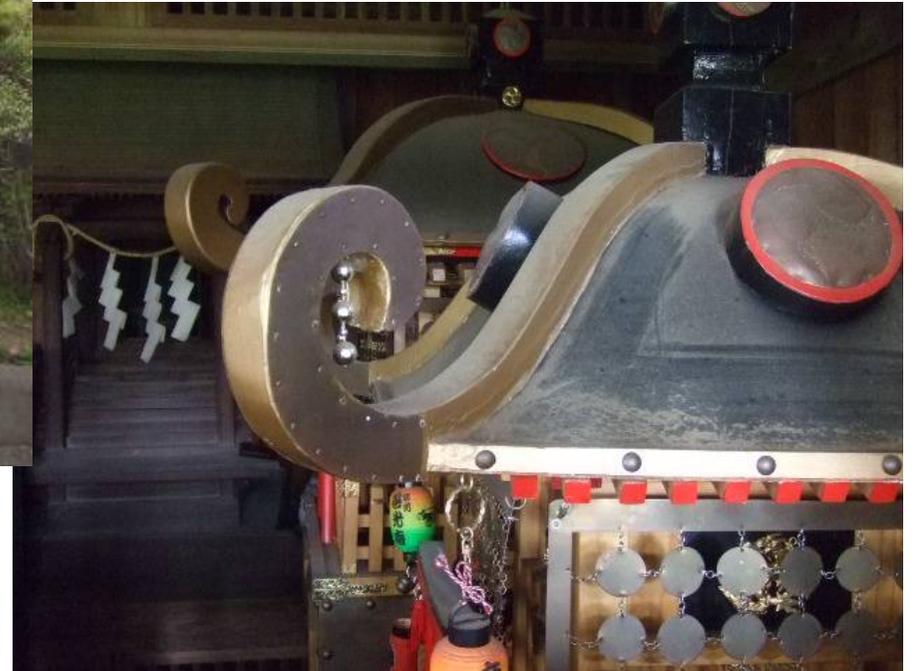
芭蕉の句碑

山王社



平成27年(2014)

川和町上・下山王
原地区の氏神で創
立年代は不詳



御神輿

天王社（祇園社）



御神輿



平成27年

土府根薬師堂

永禄3年(1560)の小田原城開城の際、小机城家老が薬師様を背負って川和町に逃れ、千代橋際の祠に遷座

道祖神(移設)



平成27年



東照寺跡



- 東照寺の山号は薬王山で、瑞雲寺の末寺として応永3年(1397)に開基建立
- 大正6年(1919)の瑞雲寺類焼のため東照寺本堂を移築し瑞雲寺に併合
- 旧東照寺跡には墓地があります



二十二夜塔

川和基督教会



大正14年



平成27年



令和3年

大正14年に横浜山手の共立女子神学校が、開拓伝道
昭和7年に「川和基督教会事業後援会」が設立
昭和16年、川和教会は日本基督教団に編入
昭和47年に会堂の献堂式
令和2年現在地に移転

石造物

- **道祖神**：路傍の神である。村の守り神、子孫繁栄、交通安全の神として信仰
- **堅牢地神**：、仏教における天部の神で大地を司る神として信仰
- **庚申塔**：街道沿いに置かれ、道標を彫る、村の境目に建立、庚申講を3年続けた記念に建立
- **月待塔**：特定の月齢の夜に集まる講中で、供養の記念として造立

道祖神

道祖神（どうそじん、どうそしん）は、路傍の神である。

- 集落の境や村の中心、村内と村外の境界や道の辻、三叉路などに主に石碑や石像の形態で祀られる神です。
- 村の守り神、子孫繁栄、近世では旅や交通安全の神として信仰されている。古い時代のものは男女一対を象徴するものになっている。



宿上



宿中



宿下

道祖神祭り

1月14日に正月飾りなどを
持ち寄って、道祖神祭の火で
焼く。火を焚くのは神を招き、
祖霊を招く方法です。宿の下
(しも)の道祖神塔が鎮座し
ている祠には一緒に炊き上げ
る石が収められています。



川和町のどんど焼き



宿下にある一緒に炊き上げる石

堅牢地神

地神は、仏教における天部の神の1柱で大地を司る。

- 大地の神に、春は豊作を祈願し、秋には収穫を感謝するといった祭りが起源と思われます。その神道版が社日となるようです。



上サ



八幡神社（川和公会堂を移設）



森



道祖神



堅牢地神碑



庚申塔



月待塔（十三夜塔）

庚申塔

庚申塔は、中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔で、庚申講を3年18回続けた記念に建立されることが多い。

- 庚申塔の石形や彫られる仏像（青面金剛）、神像（猿田彦神）、庚申講員の氏名を記した文字などさまざまである。
- 庚申塔には街道沿いに置かれ、塔に道標を彫り付けられたものも多い。さらに、村の境目に建立されることもあった。



八幡神社
川和公会堂



上サ



宿中

月待塔

月待塔（つきまちとう）は、日本の民間信仰で、特定の月齢の夜に集まり、月待行事を行った講中で、供養の記念として造立した塔である。月待信仰塔ともいう。

- 十五夜などの特定の月齢の夜、「講中」と称する仲間が集まり、月を拝み、悪霊を追い払うという宗教行事である。
- 特に普及したのが二十三夜に集まる二十三夜行事で、二十三夜講に集まった人々の建てた二十三夜塔は全国の路傍などに広くみられる。



天王社



山王社



上サ



上サ（十三夜塔）

力石

祭礼時などに神社境内で若者が力石を持ちあげ力競べを行いました。

- 鶴見川流域に力石の分布をみることができます。現在、所在が確認されている力石は、緑区、港北区、都筑区及び鶴見区の計

59個あります。

- 天王社境内に「天王さまの石」といわれる24貫(90Kg)の力石があります。



狛犬

狛犬は、獅子や犬に似た日本の獣で、想像上の生物とされる。像として神社や寺院の入口の両脇本殿・本堂の正面左右などに一対で向き合う

- 八幡神社の参道途中にある狛犬は、明治21年（1988）建立の江戸流狛犬
- 阿像は授乳中の子狛を連れ、吽像は玉を持っている。



手水石

池辺町の長王寺の享和元年（1801）及び東方町の天満宮には、文化7年（1810）在銘の手水石があり、鶴見川中流域で石造の手水石が普及しだしたのは、文化年間（1804～1818）以降とみられている。

- 八幡神社の手水石は、文政3年（1820）建立在銘です。



慰靈碑



忠魂碑

明治維新以降、日清戦争や日露戦争等に出征し戦死した、地域出身の兵士の記念のために製作され、建立の主体となったのは帝国在郷軍人会都田村分會です



日露戦役記念碑



征清陣亡之碑

土蔵

- 日本の伝統的な建築様式のひとつで、外壁を土壁として漆喰などで仕上げ
- 倉庫や保管庫として建てられる土蔵、店舗を兼ねて建てられる土蔵や店舗・住居を兼ねる土蔵



中山家の貯蔵蔵



城所家の貯蔵蔵



信田家の貯蔵蔵



**中山恒三郎邸の
店蔵**



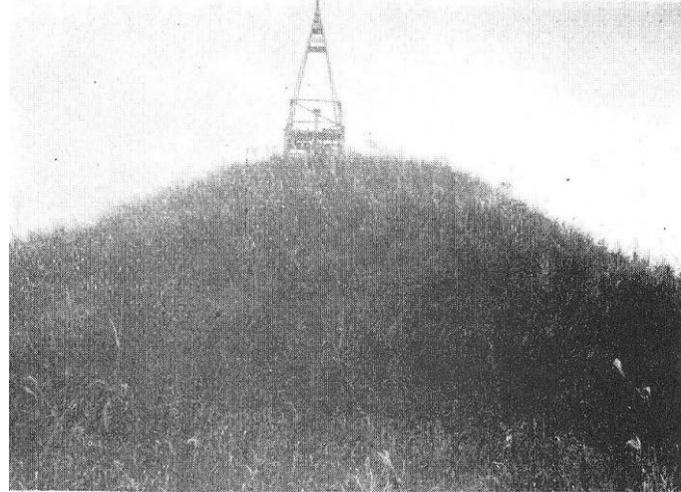
平本家の貯蔵蔵



前田家の貯蔵蔵

- 富士山を崇拜する者が組織した富士講は講の発展を記念あるいは富士山を模して富士塚を築いた。
- 池辺と川和村で喧嘩があり、村境が決定された万延元年（1860）に建設が決定
- 港北ニュータウン建設のため移設再現

川和富士



昭和4年（初代）



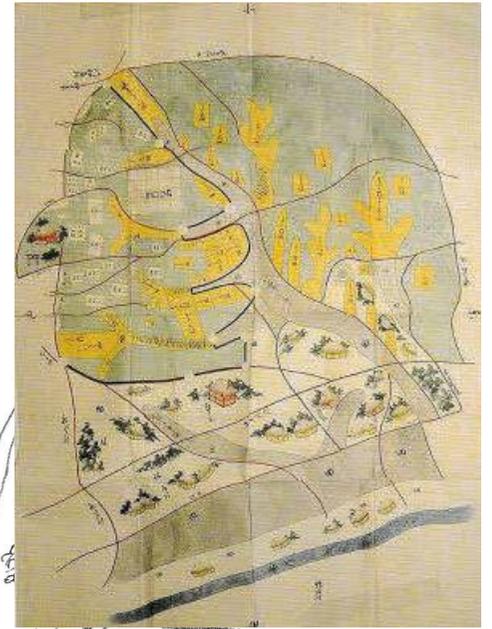
平成27年（再現）



旧川和富士があった場所



ケンカ山（花見山）



見花山かりん公園
ケンカ山



句碑

- 明治以降も都筑郡域では、俳句が盛んにおこなわれていた。
- 明治期の俳人名鑑のうち、全国の太白堂系の俳人を収載した明治27年(1894)刊『俳家百員集』に、松籴堂清裁(松野重太郎)および源々堂水哉(信田汎房)が載せた。
- 紅葉庵平貨は、川和村名主役を勤めた守谷家出身の人で其角門桑々畔(そうそうはん)貞佐の系統をくむ俳人です。



八幡神社にある
句碑



妙蓮寺にある
句碑



松尾芭蕉の句碑
(天宗寺)



紅葉庵平貨の句碑

川和の大木



森の無患樹

八幡神社
の大杉（伐採）



上サの銀杏



シドモア桜

ポトマック河畔の里帰り

- ・ワシントンへ友好・親善のため桜が送ることに大きく貢献したのがシドモアさん
- ・シドモアさんのエピソードを伝えるために、接ぎ木により育てた桜が川和町駅横に植えてあります



ヨコハマタケ

(発見者・松野重太郎)

「横浜」の名がついた横浜市に自生している植物である『ヨコハマタケ』を発見した。都筑郡川和村の松野家に養子に入り、佐江戸寺子屋の教師でから、川和分校の主任を務め、明治30年(1897)に神奈川県内初の公立中学校「神奈川尋常中学校」(現在の希望が丘高校)の開校に参加した。



松野重太郎



ヨコハマタケ



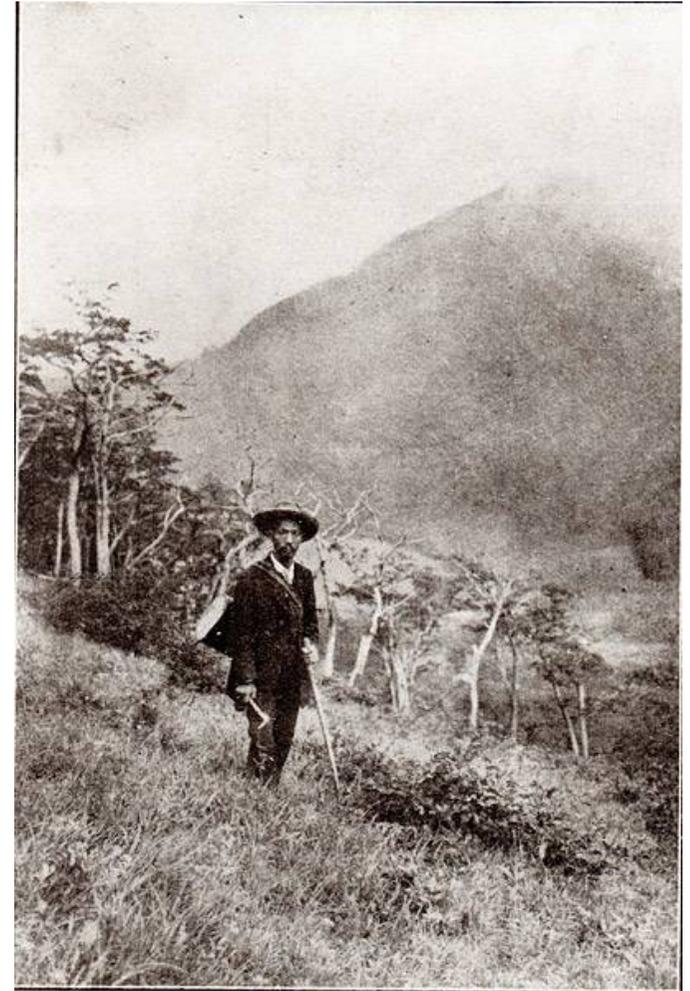
ヨコハマタケ石碑

考古学者の岩澤正作

研究分野は、自然科学から郷土史、考古学と幅が広く、全国で初めて遺跡と火山灰との関係を明らかにするための古墳調査も行った。都筑郡川和村の農家に生まれ、都筑郡都田村佐江戸にある豊永小学校訓導として勤務した後、群馬県にある大間々共立普通学校（現在の大間々高等学校）に転任し、石、石器、土器のほか貝や植物の研究を続けた。



岩澤正作



群馬の色々な場所に出かけて研究

信田日記



信田邸

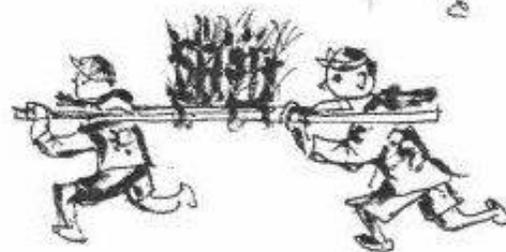


名主の信田太郎右エ門は、天保15年（1844）の元旦から大晦日まで、旅行で不在の日を除いて毎日欠かさず、仕事、事件、農作業、交友などを日記に記した。

川和の虫送り

川和、虫送り

杉の葉で
出来たニコニコ
二人でかっいで
タノイ松の列を
後になつたり
先にはつたり
威風凛々
走つて来た



昔、7月25日に“川和の虫送り”といって、農薬がなかったため、稲につく害虫を松明の火で呼びよせて焼きはらうという行事がありました。

しかし、戦争のため中止となり戦後になって、火災の心配があったため今は途絶えてしまいました。

大六天の井戸

平成27年

地図

至る 川和高校



法務局



昭和4年



平成27年

緑区が設置され中心は中山へ、法務局は官公庁の移設が行われたのは最後で、昭和50年頃に川和教会の裏側に移設しその後市が尾に移りました。その跡地が公舎が建てられました。

関東大震災

焼死が
大部分

	死者人数			人口 (昭和3年)	死者率	損傷戸数	
	焼死	圧死	合計			全壊	半壊
東京府	67,000	3,000	70,000	2,200,000	3.2%	24,000	29,000
神奈川 縣	25,000	7,000	32,000	420,000	7.6%	64,000	54,000
川和	—	7	7	1,162	0.6%	8	11

総戸数の
8.5%





台風被害

昭和33年
狩野川台風



生麦付近

昭和41年
台風4号



網島樽町

ふれあい郷土館

平成8年、川和小学校に「ふれあい郷土館」が開設され次のものを展示

- 農家の囲炉裏部屋を中心に、かつての川和周辺で実際に使われていた生活用具、農具、農機具



ふれあい郷土館

- 中山浩三郎宅（薬問屋）で使われた家具類や昔の生活用具・文房具が展示



ふれあい郷土館

- 川和町の菊作りに関する学術的に貴重な本
- 根本一作さんをはじめ、地域の方々が使っていた農具

